

# 不登校新聞

発 特定非営利活動法人  
行 全国不登校新聞社

■東京編集局 〒114-0021  
北区岸町1-9-19  
TEL 03-5963-5526  
FAX 03-5963-5527  
E-mail tokyo@futoko.org

■名古屋支局 〒464-0036  
名古屋市千種区本山町2-33-1  
TEL 052-759-2375  
FAX 052-763-7371  
E-mail nagoya@futoko.org

■大阪通信局  
TEL 050-5883-0462  
E-mail osaka\_c@futoko.org

毎月1日・15日発行  
購読料・月820円

◎カード決済(毎月契約)  
◎銀行自動振込(半年契約)

【郵便振込先】  
加入者番号 00100-6-22077  
加入者名 全国不登校新聞社

www.futoko.org

## 不登校50年 証言プロジェクト

坂本悦雄さんに聞く 奥地圭子

### 50年代に不登校の子と…

校拒否の子どもとの関わりを持っていた方で、青森県で「心の窓」という活動をやっておられた。今回のプロジェクトのために探したところ、現在は休養・保養のため、青森県八戸市から娘さんご夫妻が暮らされている栃木県小山市です。ごされていることなどを顧問先の「八戸あおほ高等学校」から教えていただいた。さっそく連絡をとってみ

#### 1953年ごろ 青森の山間部で

坂本悦雄さんは1929年(昭和4年)生まれでいらっしゃり、現在87歳になられています。

坂本さんは私の知るかぎりでもっとも古くから登

坂本さんがはじめて会った不登校の子どもは、教員として坂本さんが赴任した

ると、快く取材に応じてくださるとの返事。小山市で「小山フリースクール」おられたをやってる稲葉裕一朗さんとともに7月3日、奥様も同席でインタビューをさせてもらった。

め理由を尋ねると、坂本さん自身が小学校入学直後から不登校を経験されていたことがわかった。不登校とは言っても「一人では登校できない」ため、祖母と同伴登校が約2年続いたとのこと、欠席にはなっていないかったそうである。祖母は、坂本さんが学校にいるあいだは学校の廊下ですっと針仕事をされていた、という話が胸に残った。



坂本悦雄さん(写真左)へのインタビューのようす。本文は<http://futoko50.sblo.jp/>

青森県の山奥の中学校で出会ったAくんだった。1953年ごろのこと、Aくんは小学校4年生から不登校だった。坂本さんがAくんの家に会いに行ったところ、Aくんはマキ割りが抜群にうまいことを知った。坂本さんはAくんと信頼関係を築き、学校のマキ割りを頼んだという。するとAくんは喜んで早朝から学校に来てマキ割りをし、ほかの生徒が登校する前には家に帰るといふことを続け、しだいに教室にも入るようになったそう。Aくんは中学を卒業後、左官屋さんで働き、のちに社長や市議会議員になった。坂本さん自身はAくんに「学校へ来い」とは言わなかったそう。それが不思議だった。

坂本さんは、その後、高校教員、県教育庁職員、高校校長、社会教育センターなど教育畑を歩いてこられたが、ずっと一貫して、不登校の子どもへの成長支援に関わってこられた。なかでも自宅で始められた「心の窓」は四半世紀を超えた今も八戸に戻れば人が集まってくる、坂本夫妻に米や野菜が届く日々とのこと。私流に言えば、居場所、学び場、相談の場として、いつも毎日開かれ、不登校の子どもやその親が集まっていたところである。それには奥様の力もとても大きかった。

お話を聞くと、子どもや親への優しいまなざしと温かい心に満ちた関わり方、やってこられたことが伝わって至福の時間であった。